



福岡県小郡市大板井1143-1

電話番号 0942-72-7221

FAX 0942-72-7222

そら

発行人

こぐま福祉会 編集委員会

<http://www.koguma.ed.jp>

社会体験に行ってきました



社会体験

甘木イオン買い物

六月二十一日（金）社会体験の一環として、甘木イオンショッピングセンターへ買い物に行ってきました。

当日は、台風の影響で雨天でしたが、スタッフとペアを組み思い思いに好みの物を探したりウインドウショッピングを楽しみながら素敵な時間を過ごしました。昼食も自分でチョイス。日頃と違った雰囲気の中、幸せそうな表情がみられ利用者の方の瞳もきらきらと輝いていました。車椅子での生活や、お口から食事のできない方もおられ大変なことも多いべあクラブの仲間たちですが、みんな明るく生き生きと“若い今”の毎日を大切に楽しみながら生活しておられます。

べあクラブでは、色々な事にチャレンジし、四季折々の季節を感じ、多くの人との触れ合いをしていきたいと考えています。

今年もプールや夏祭りの出店、キャンプ、スポーツ大会、クリスマス会、餅つき、バスハイク等々、沢山の行事や活動を計画しています。

保護者の皆様のご協力を頂きながら、ご家族も一緒に多彩な経験をし、沢山の楽しい思い出が心に残り、明日を生きる力に繋がっていかたいと思います。

（指定生活介護事業所べあクラブ）



(キャンプ実行委員 福田)

THE こぐま療育キャンプ!

七月です。暑い夏がやってきました。夏といえば、待ちに待った尾久保の療育キャンプの季節。今年もたくさんのお友達と行きます!

今回は、こぐまの療育キャンプの活動を紹介します。

まず、名物「グライダー山、登山」。久留米の耳納連山の一角にあるグライダー山に登ります。小学生は約一、二時間のコースですが、中学生は尾久保小学校からグライダー山まで往復五、六時間歩き通します。暑くきついですが、でも仲間と助け合い、先生に励まされながら登った頂上の光景は最高です!

また、恒例の「竈でクッキング」。でっかい釜でご飯やカレーをみんなで作ります。ここで登場するのが火焚きの職人達。鉋でしゃにむに薪を作ってくれるA君☆その薪を竈に正確なコントロールで投げ込むB君☆汗をかきながら竈の前から絶対離れず火を見つめ続ける竈の番人C君。みんな一生懸命キャンプを盛り上げてくれます。

楽しめる活動Ⅱ自分から(能動的に)取り組む活動です。失敗しても繰り返してチャレンジし、自分で考えて、自分の手や足でやってみる中で本当の生きる力を少しでも育てられればと思っています。

夏バテ対策

元気に夏を乗り切るためには、疲れをためないことが大事です。旬野菜にたっぷり含まれているビタミンCは疲労回復に◎。ビタミンB1を多く含む食品(豚肉・うなぎ・胚芽米・大豆など)と組み合わせると、さらに効果UP!

旬野菜の献立例をご紹介します。

ゴーヤチャンプル

「材料」・ゴーヤ 一本

・豆腐 一丁

・豚肉 一五〇g

・卵 一個

・油と塩、こしょう各少々

「作り方」

① ゴーヤの種とワタを取り除き、薄切りにする。

② フライパンに油を入れて、豚肉・ゴーヤをよく炒め水切りした豆腐を加え、火が通ったら溶き卵を回し入れ塩、こしょうで味を整える。

オクラ納豆

「材料」・オクラ 一〇〇g

・納豆 一〇〇g

「作り方」

① オクラを刻んで納豆と和える。

② 好みてポン酢や醤油をかける。

清涼飲料水、甘いお菓子、インスタント食品など糖質のとり過ぎによるビタミンB1の不足に注意しましょう!

(給食課 一本)

学会参加報告

五月二十四日(二十六日、日本理学療法士学会大会に参加し、『先天性多発性関節拘縮症を持つ女児への理学療法経験』というタイトルでケース報告を行いました。多くの方からアドバイスやご意見を頂き、実りある発表となりました。

また、興味深い研究報告も多く、充実した学会となりました。

(理学療法士 田中)



「こぐま療育セミナー」

ト案内

七月二十六日(金)・二十七日(土)、小郡市総合福祉センター「あすてらす」にてこぐま療育セミナーを開催します。本年度は、特別講演として、北九州市立総合療育センター地域支援室長・相談支援専門員の横田信也先生をお招きしています。今後の支援のあり方について有意義なお話が聞けるものと思います。まだ定員に若干余裕がありますので、是非ご参加いただきますようご案内いたします。詳細は案内をご覧ください。担当までお尋ねください。

(セミナー委員 白水)

レントゲン撮影終了のお知らせ

これまで年に三回、レントゲン撮影日を設けていましたが、機器の老朽化、また近隣の医療機関で撮影される方が増えてきたため、こぐま学園診療所でのレントゲン撮影を終了します。

これまで同様、近隣の医療機関で撮影したレントゲン写真は当園整形医師にて状況確認する事が出来ます。

ご理解、ご協力の程よろしくお願い致します。(医療支援部 木下)

新入職員紹介

言語聴覚士

ながまつ ゆきこ
永松由樹子

行事予定

四日(木) 小郡特別支援学校見学
九日(火) 避難訓練
十一日(木)

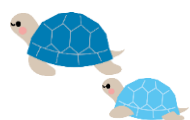
太宰府特別支援学校見学
二十六日(金)・二十七日(土)

こぐま療育セミナー

《交流保育》

味坂保育園
三國保育所

十六日(火) 真愛保育園
三十日(火) 五条保育所



よろしく
お願いします

クラブ1組 作業

現在7人在籍しており、作業を中心に活動を行っています。貼り絵やペットボトルビーズ・せっけん・うちわ作り等様々な作業に、みんなも真剣に取り組んでいます。作業前には軽くストレッチを行っています。今回はサツマイモの苗植えに行きました♪

(クラブ1組担当 平川)



クラブ2組 スポーツ

クラブ2組は、14名が在籍しています。スポーツを通して、声を掛け合うこと、楽しむこと、そして協力することを狙いとして活動しています。

今はサッカーに取り組んでおり、パスやシュート、ディフェンス練習を行い、試合が出来るように頑張っています！

(クラブ2組担当 田中)



クラブ3組 クッキング

クラブ3組には、男女14名が在籍しています。

クッキングだけでなく、材料の買い出しから自分達で行っています。

先日はみんなでサツマイモの苗植えをしました。秋には収穫したサツマイモを使った料理をする予定です！

(クラブ3組担当 牟田)



放課後等デイサービス グループ紹介

クラブ4組 野外活動

野外活動は、現在7人で活動しています。外でのラジオ体操から始まり、薪割り、焼き芋、旗作りを行っています。活動を通して他児との道具の共有、周りを見て行動にうつすことを狙いとして取り組んでいます。今後は登山などにも挑戦していきたいと思っています。

(クラブ4組担当 立山英)



クラブ5組 音楽・美術

現在14名で活動をしています。

貼り絵やダンスなどに取り組んでできました。やり方が分かってくると、みんな集中し、『やったぞ！』と達成感がいっぱいになっている時間になっています。

今後も、写真や楽器、書道など、生活の中で楽しめる趣味・余暇の時間に繋がるような、色々な活動を行う予定です♪ (クラブ5組担当 梅木)



愛らんど宿泊体験

五月十一日(土)・十二日(日)

で愛らんど恒例のやすらぎ荘宿泊体験を行いました。将来的なことを考え、ケアホーム利用や施設入所を見据えた体験をすることで、個人の適応力の向上を目指しています。

一日目は、田主丸一麦寮の『ステップ』にて昼食。彩り豊かで食後も進み、ほとんどの方が完食。食後は、石橋文化センターで行なわれたバラフェアに行き、たくさん

のバラを見て来ました。二日目は、夜須高原記念の森でウォーキング。その後、思い出としてオリジナルの写真立てを作りました。利用者一人ひとり、ほのぼのとした雰囲気の中で職員と一緒に作製しました。天候にも恵まれ、リフレッシュする事が出来ました。(生活支援員 下野)



心の窓



くわがたグループ
まつもと りょうま
松本 亮馬くん

亮馬は平成十九年七月、男女の双子の兄として生まれました。出産後の入院中は特に指摘もなく退院しましたが、一ヶ月健診で指摘され、染色体検査の結果、ダウン症であることがわかりました。

なかなか受け入れられない私は、当時小学生だった長男に励まされました。長男は、小学校でダウン症の同級生三人と一緒に過ごしたり、遊んだり、自然に接しているように感じました。そのことを境に、とても気持ちに楽になったように思います。

その後、二カ月半の時に動脈管開存の手術。十カ月の時に点頭てんかんを発症。一歳を過ぎてからは、RSウイルスからの肺炎や、誤嚥性肺炎のため、入院の繰り返しでした。入院中は長男にも双子の妹にも大変な思いをさせたと思います。そのあと、在宅酸素と、食事が経管栄養になりました。

三歳になってからは、酸素も外れ食事でも口から食べる練習を再開しました。

こぐま学園さんは、生後三カ月の

時に病院から紹介していただきました。当初は、体を動かす運動などを教えていただくとう、紹介していただいたのですが、ミルクの段階からSTの指導を受けた方が良いことがわかりました。

生後四カ月からPT・STを開始しました。途中入院等で休むことはありましたが、からだも少しずつ大きく丈夫になり、三歳からはグループの活動に参加しています。

まだ、立つことはできませんが、ずり這いで家の中を自由に移動しては、手の届く範囲で様々なものを落としたり投げたりと、いたずら盛りです。

でも、いつもニコニコの亮馬は周りを癒してくれ、家族の中で欠かさない存在です。これからもいつものニコニコのまま、自分のペースで成長して欲しいです。

入院中のことを考えると、現在の成長は驚くばかりです。

こぐま学園の先生方には、様々な面で亮馬の成長を支えていただき、本当に感謝しています。

(松本亮馬の母)



こぐまLINE



言語聴覚士
よこやま ゆうこ
横山 佑子

こぐまLINE第二号は言語聴覚士の横山佑子です。

「言語聴覚士」と言うと「何それ?」「どんな仕事?」と聞かれることが多く、理学療法士や作業療法士に比べるとまだまだ世間には知られていない職業のようです。そんな言語聴覚士という仕事を知ったのは高校一年生のときでした。ある日、様々な職業が紹介された冊子が配布され、それをべらべらめくりながら「おっ!」と見つけたのが言語聴覚士という仕事でした。人と関わる仕事がいい、という漠然とした思いしかなかったのですが、そのページがどうしても気になっていました。それから、「やっぱり環境問題が勉強したい」と別の道を選択し、大学へ進学することになるのですが、就職活動の時期に、再度言語聴覚士という仕事に気がなり、資格取得を目指すことになりました。

私にとって初めての職場となったこぐま福祉会。こぐまには私の好きなところがあります。それは個別だ

けでなく、保育の中で子どもたちの様子をみることができるところです。四十分の個別場面では見ることのできない子どもたちの姿がたくさん詰まっています。こんなこともできるんだ、こんな反応をするんだと本当に驚かせられます。残念ながら、今はなかなか保育に入ることはできませんが、その分、保護者の方から家庭での様子を教えて頂いたり、子ども達に関わるたくさんの方のスタッフと情報交換する中で、嬉しい気持ちになったり、同時に個別場面ではどんなことをしようか考える機会となっています。

きっかけは、単なる一冊の冊子でしたが、今こうして言語聴覚士として子どもたちと関わることで、笑顔で仕事ができていることを幸せに思います。毎日が試行錯誤ですが、子どもたちや保護者の方から日々、たくさんの方のことを学ばせて頂き、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。最後に、こぐまにはアクティブなスタッフが多く、私も影響を受けて、一昨年はフルマラソン、昨年は富士登山に挑戦しました。今年は屋久島に行きたいなあ!子どもたちに負けないよう、仕事もプライベートも頑張ります☆

今後ともよろしくお願いいたします。